

平成 30 年度第 2 回（第 18 回）山陽小野田市地域公共交通会議

議事録

平成 30 年 10 月 11 日（木）

2. 協議事項

発言者	発言要旨
地域内フィーダー系統確保維持計画（計画内容の変更）について	
委員	利用者数の目標値が増えているが、エリア拡大によるものか。
事務局	エリア拡大にあたっては事前にニーズ調査を行い、現行エリアと同程度の割合の利用が見込めると判断した。拡大エリアでの利用見込数を 8 人としたため、前回の 2 3 人から 3 1 人へ変更した。
委員	エリアが拡大するにも関わらず、松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線のサービス提供時間に変更がないのはなぜか。
事務局	サービス提供時間は、最大乗車時の場合に要する時間と考えている。運行事業者との協議により、乗車率に余裕のある現在の利用状況から、エリアが広がっても最大運行時間は変わらないとの回答があり変更していない。
委員	エリアが拡大したことは良いことだが、自治会での括りではなく、客観的な資料に基づいて設定すべき。対象となっていない自治会でもバスや駅から遠い人もいる。
事務局	対象エリアに隣接している自治会から運行してほしいと希望を受けたこともあるが、今現在、個別の家で設定することができないため、自治会単位の方法以外で基準を設けるすべがない。距離基準とするにしても、地形上、近くに見えるが実際は遠い等といったこともあるので、今すぐに解決することはできないが、今後の検討課題としたい。
委員	運行エリアが広がったため、乗車して一度目的地を通過して次の乗車ポイントに行き、目的に行くのか。
事務局	運行事業者が一番効率の良い経路で運行を行う。また、運行時間内にすべてを回れない場合は、追加でセダntaxi を走らせることにしている。若干待つていただくことはあるとは思いますが、出来る限り効率の良い経路で運行する。
委員	デマンド交通は生活の為に必要なものなので、エリアや料金、公共交通機関との乗り継ぎなどを再度検討してもらいたい
会長	今後、バス路線再編の話が出てくる。デマンド型、定時定路線はそれぞれ一長一短があるため、上手く利用すべき

3. その他

発言者	発言要旨
見直し候補路線について	
コンサルタント	① 市南部を走る路線について便数が多いが利用者が少ない。バスの回転場のために利用者が少ない地域まで運行している。 ② 循環線の利用者が少ないため運行経路の見直しが必要 ③ 旧山陽町時代に運行を始めた路線について、利用者が少なく運行経路以外のニーズもある。
事務局	地域公共交通網形成計画策定時の乗降データ等から客観的に分析をしてもらったもの。 総合的に今年度の計画策定を考えれば、現状報告をさせてもらった。今後、協議する場合は改めて会議の議題としたい
委員	合併したことが反映されていない路線がある。主な施設は小野田にある。
事務局	旧山陽町で開始した路線をそのままにしているため、見直しを検討すべき時期なのかもしれない。ニーズの有無も含めて路線を見直すべきかどうかは、現在の利用者や関係者の意見を聞きながら協議していきたい。
委員	定期バスについて、どこでも乗降出来るようにすれば利用者が増えると思う
事務局	フリー乗降は関係者（警察含む）の同意があれば可能であり、高千帆団地内とねたろう号の延伸部分についてはフリー乗降で運行している
委員	ねたろう・いとね号について、全行程フリー乗降できれば利用人数が増えると思うので、検討してほしい。
会長	定時路線、デマンドをうまく使い分けながらバス路線を再編すべきである。路線を見直す際は、バスの回転場を別の場所に設けるなど検討していくことになる。バスのみで公共交通の全てを解決する必要はなく、運行頻度の高いJR山陽本線も考慮すべきであるし、190号線を走るサンデン交通の路線も考慮すべきである。 今後の話について、学校区がなくなったことにより遠方から通学する高校生が増えており、通学時に自転車、バス、鉄道をうまく使い分けているので参考にすると良い。
事務局	計画の策定は、バス事業者の協力や準備等があるため簡単にはいかないが最速での計画変更は来年の10月からとなる。その場合は年度内にある程度決めておかないといけない。必要に応じて当会議を開き、皆様の意見を頂戴したい。
閉 会	